

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部 河川課
評価対象期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分県リバーパーク犬飼	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	豊後大野市犬飼町田原字舞田		
	設置目的	大野川の優れた景観を生かし、スポーツ及びレクリエーションの場を提供することにより、県民の健康で文化的な生活の向上を図る		
指定管理者	名称	豊後大野市		
	代表者名	豊後大野市長 川野 文敏		
	所在地	豊後大野市三重町市場1200		
指定管理業務の内容	①大分県リバーパーク犬飼の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ②大分県リバーパーク犬飼の使用の受付及び案内に関する業務 ③大分県リバーパーク犬飼の利用の促進に関する業務 ④前各号に掲げるもののほか、県が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
(1)	施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】
	○ リバーパーク犬飼は、県が整備した多目的グラウンドとカヌー艇庫、豊後大野市が整備した広場、ログハウス、テニスコート等を市が一括管理することで効率的・効果的な運営を図っている。
	○ 多目的グラウンド等の利用者数は令和元年度8,452人と目標指数9,600を下回ったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響で年度末の利用者数が伸びなかったことが要因と思われる。なお、4月～12月までの平均利用者数は809人/月と、目標指標と同等となっており、平成29年度から芝管理の徹底を図ってきた成果が出ているものと考えられる。
	○ クラブチームや県内の高校、中学校のサッカー一部が継続的に利用している。また、市が所有するサッカー場を提供する形での大会や合宿の実施といった利用形態が定着している。
	○ 市の施設がオートキャンプ場等にリニューアルされる令和2年度以降は、多目的グラウンド利用者によるチームビルディング合宿の実施など、一体的な利活用の促進を図る必要がある。

(2) 利用者の満足度
①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
④利用者への情報提供が十分になされたか。
⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
<p>【所見】</p> <p>○施設利用者へのアンケートを実施した結果、令和元年度は利用手続の容易さなどの各項目及び全体的満足度について4段階の満足評価で3.8という回答を受けているが、アンケートのサンプルが少ないため、増やすための取組が必要である。</p> <p>○利用者からの意見、要望については随時受け付けている。</p> <p>○利用者への情報提供として、市の所管する施設を含めて、市や(公社)ツーリズムおおいのHPに掲載するなどの情報発信を行っている。</p>
2 効率性の向上等に関する取組み
(1) 経費の低減等
①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。
<p>【所見】</p> <p>○本施設の収入は、県からの委託料と施設の利用料金で構成される。令和元年度の委託料は8,639千円、利用料金収入は2,218千円、合計10,857千円となっている。支出では、芝の維持管理費等に8,586千円、人件費1,571千円、合計10,157千円となっており、予算の範囲内で施設の運営経費を賅っている。</p> <p>○カヌー艇庫については、大分県カヌー協会に再委託をしており、カヌー艇庫の収入の範囲内で経費を賅っている。</p>
(2) 収入の増加
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
<p>【所見】</p> <p>○収入増を図るためには利用時間の増が必要となるが、利用時間の増は、芝のコンディションの悪化につながるため、平成30年度から利用制限をかけている。利用制限をかけている中でいかにして収入を増加させていくか平成30年度と令和元年度の状況を見ながら検討する。</p>

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

- 適正なスタッフの配置により、適切な安全管理に努めている。
- スタッフと豊後大野市職員が定期的に意見交換を行ない、情報共有がなされている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。
- ⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。
- ⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

- 施設の利用受付については、大会の開催日程などに配慮しつつ、施設管理条例及び関連規定等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取扱いを行っている。
- 緊急時対策、防犯・防止対策については、マニュアルを作成し、適切な対応ができるよう職員の指導・教育がなされているが、利用者を含んだ避難訓練は実施していない。

【総合評価】

【所見】

- 多目的グラウンド利用者数は減少傾向が続いていたが、令和元年度は前年度と比較して利用者数が微増している。コロナウイルス感染症の影響があり年度末の利用者数が伸びなかったにも関わらず利用者数が増えた背景には、平成30年度から実施している利用制限による芝のコンディションの改善が要因にあると思われる。
- 利用者アンケートは施設運営のための大事なツールであるため、サンプル数を増やす取組が必要である。

【今後の対応】

- 令和2年度からは県と豊後大野市の施設を同一の民間指定管理者が運営している。両施設の一体的利活用を推進するとともに、効果的・効率的で利用満足度の高いサービスが提供できるように、民間指定管理者、県、豊後大野市等の関係団体が協力していく。